ルーブリックによる評価の波及効果

こめ蔵プロジェクト第3回WS（2013/3/9）
「中国語教育の基盤の再設計にむけて」
於：早稲田奉仕園You-Iホール

神田外語大学アジア言語学科　植村麻紀子

本発表のゴール

学習者へのフィードバック

という観点と

教師の使いやすさ

という観点 から

ルーブリックを考えたい

本発表のアウトライン

- ルーブリックで評価したプロジェクト型活動（2011年度中国語専攻２年次「総合」の授業）の紹介
- 評価に用いたルーブリックと、それを活動開始時に提示したことによる作品づくり・発表への波及効果
- 学習者へのフィードバックという観点と教師の使いやすさという観点からルーブリックを考える

「ルーブリック」（評価基準表）とはこういうものです

評価基準	目標以上を達成⑤	目標達成③	目標まであとひといき①
発表内容 （情報量、内容の豊かさ、独創性、適切性）×２＝10点満点	情報量がかなり多く、バラエティに富み、独創的である。学生らしく自分たちなりの視点を持ちつつ、受け取る留学生の目線を意識した内容構成になっている。	情報量が多く、バラエティに富み、独創的である。学生らしい視点や受け取る留学生の目線への配慮もそれなりにある。	内容があまり豊かでなく、具体性に欠け、それを知らない人にはよくわからない。作品自体はそれなりにできているが、自分たちの自己満足に終わっている感もある。
作成上の工夫 （作品全体の構成、わかりやすさ、聞き取りやすさ、見やすさ等）×２＝10点満点	多くの情報を整理して、大変わかりやすくまとめている。全体の構成やポイントがよくわかる。初めて見た人にも印象に残る。受け取った人が必要な情報が取り出しやすい。	多くの情報をわかりやすくまとめている。初めて見た人にもよくわかる。	集めた情報が整理されておらず、全体の構成やポイントがあまりよくわからない。聞き取りやすさや見やすさに欠ける。
文法・語彙・発音の正確さ ×２＝10点満点	文法・語彙が正確である。リズムよく正しい発音で話している。簡体字やピンイン、日本の漢字を正しく書いている。	文法・語彙がほぼ正確である。コミュニケーション上問題のない程度（情報がほぼ伝わる）発音で話している。簡体字やピンイン、日本の漢字を正しく書いている。	文法・語彙の正確さに欠ける。発音が不正確なために情報が正しく伝わらない可能性がある。漢字表記のミスが目立つ。
発表方法の工夫や発表態度 （きちんと暗記しているかも含む）×１＝5点満点	表情豊かに自分たちの言葉で生き生きと伝えている。きちんと覚えて話している。みなに見やすい（聞こえやすい）よう、内容がよりよくわかるよう、発表が工夫されている。	自分たちの言葉で生き生きと伝えようと努力している。きちんと覚えて話している。みなに見やすい（聞こえやすい）よう、内容がよりよくわかるような発表の工夫が見られる。	初めて見る/聴く人にはあまりよくわからない。自分たちの言葉で生き生きと伝えようと努力しているが、きちんと覚えていない。発表の工夫もあまり見られない。
協力度・コミュニケーション ×１＝5点満点	それぞれの個性や特技を活かしながら、全員が協力して作成/発表している。	全員が協力して作成/発表している。	一部の人の力に頼り、全員で協力的に作成/発表している姿があまりみられない。
総合得点	／40点		
コメント			

詳しくは『外国語学習のめやす』をご覧ください

- 総括的評価（単元の最後）　と形成的評価（単元の途中）

  ▶『外国語学習のめやす』71～72頁

- ルーブリック評価 ▶ 94~102頁
- 自己評価 ▶ 103~105頁
- ポートフォリオ評価 ▶ 75~76頁

いいテストは
いい学習者を
作る！

- 中国語専攻２年生「総合II」：プロジェクト学習

「学校紹介ビデオ／冊子を作り、交換留学先に送ろう」

プロジェクト型学習活動とは

言語の重要な機能の一つである、言語を使った社会活動を教室にもち込むことによって、現実の環境を教室内に作り、学習者が自ら問題を発見し、仲間と問題を解決する活動。

学習者の身近で関心のある話題や21世紀のグローバル社会に関する重要な課題（環境問題等）などを、実社会とのつながりの中で取り上げることによって、学習者が主体的、能動的に学習を行い、関心・意欲が高まり、効果的に学習が進む。

- 中国語専攻２年生「総合II」：プロジェクト学習

「学校紹介ビデオ／冊子を作り、交換留学先に送ろう」

プロジェクト型学習活動とは

中国の大学生はどんな生活を送っているのだろう。自分が中国に留学する前にどんなことを知っていたら安心だろう

一つである、言語を使った社会活動を教室

て、現実の環境を教室内に作り、学習者が

自ら問題を見つけ、仲間と問題を解決する活動。

自分が知りたいことは日本留学を考えている中国の学生も知りたいはず。

学習者の身近で関心のある話題や21世紀のグロー

する重要な課題（環境問題等）などを、実社会との

で取り上げることによって、学習者が主体的、能動的に学習を行い、関心・意欲が高まり、効果的に学習が進む。

「構成主義」の教育理論

学習に重点が置かれ、学習者を取り巻く社会的な状況、実際の日常生活に関連する意欲、他者との相互作用などの実体験を通して学習することに関心が払われる。与えられた知識を吸収することよりも、学習者自らが問題を見つけ、解決方法を探ることのできる力、メタ認知能力を養うことに重点が置かれる。

プロジェクト学習

「学校紹介ビデオ／冊子を作り、交換留学先に送ろう」

手順（**2011年**12月6日に案内。

12月13、20日、2012年1月10日の3回の授業で準備、17日に発表。）

①グループに分かれる（自分のやりたいテーマを選ぶ。希望者が偏ったら調整）

②グループごとにプラン（具体的な内容、作業分担・日程、必要な機材の調達方法等）を考える。

③参考資料I（交換留学先の上海大学のHP）を読み、配付した質問に答える。
これを参考に、自分たちはどのような内容／紹介文にするか考える。

④参考資料II（初級教科書）を見て、使えそうな語彙や文型をピックアップ。

⑤グループごとに作成。

⑥出来上がった作品（ビデオ／冊子）を見せながら中国語でプレゼンテーション。

⑦振り返りシート（次頁参照）に記入し、作品とともに提出。

●プロジェクト学習

「学校紹介ビデオ／冊子を作り、交換留学先に送ろう」

▪参考資料（教材）

参考資料I：本学の交換留学先の一つである上海大学のHPから引用した学校紹介文。

参考資料II：初級中国語教科書

小渓教材研究チーム2002『高校生からの中国語』 白帝社。第2、4、５課。

小渓教材研究チーム2011『高校生からの中国語2』 白帝社。第2、3課。

▪作業グループ（1グループ3〜6人）

A: キャンパス紹介（大学の概要や建物中心）ビデオ作成班。

B: 同パンフレット作成班。

C: キャンパスライフ紹介（自分たちの一日）ビデオ作成班。

D: 同パンフレット作成班。

E: 先生や同級生・先輩・後輩紹介（ひと中心）→ビデオまたはパンフレット作成。

F: その他（学校周辺のお店や千葉県の見どころ・特産物など→これ以外でもOK）

学生たちの作った
学校紹介ビデオと冊子を
ご覧ください

（中国語学科2年生
「総合II−１」2012年1月17日発表）

評価は「ルーブリック」で　→初めに学生に提示し作成/発表のヒントに

評価基準	たいへんよくできました⑤	よくできました③	もう少し努力が必要①
発表内容 （情報量、内容の豊かさ、独創性、適切性）×２＝10点満点	情報量がかなり多く、バラエティに富み、独創的である。学生らしく自分たちなりの視点を持ちつつ、受け取る留学生の目線を意識した内容構成になっている。	情報量が多く、バラエティに富み、独創的である。学生らしい視点や受け取る留学生の目線への配慮もそれなりにある。	内容があまり豊かでなく、具体性に欠け、それを知らない人にはよくわからない。作品自体はそれなりにできているが、自分たちの自己満足に終わっている感もある。
作成上の工夫 （作品全体の構成、わかりやすさ、聞き取りやすさ、見やすさ等）×２＝10点満点	多くの情報を整理して、大変わかりやすくまとめている。全体の構成やポイントがよくわかる。初めて見た人にも印象に残る。受け取った人が必要な情報が取り出しやすい。	多くの情報をわかりやすくまとめている。初めて見た人にもよくわかる。	集めた情報が整理されておらず、全体の構成やポイントがあまりよくわからない。聞き取りやすさや見やすさに欠ける。
文法・語彙・発音の正確さ ×２＝10点満点	文法・語彙が正確である。リズムよく正しい発音で話している。簡体字やピンイン、日本の漢字を正しく書いている。	文法・語彙がほぼ正確である。コミュニケーション上問題のない程度（情報がほぼ伝わる）発音で話している。簡体字やピンイン、日本の漢字を正しく書いている。	文法・語彙の正確さに欠ける。発音が不正確なために情報が正しく伝わらない可能性がある。漢字表記のミスが目立つ。
発表方法の工夫や発表態度 （きちんと暗記しているかも含む）×１＝5点満点	表情豊かに自分たちの言葉で生き生きと伝えている。きちんと覚えて話している。みなに見やすい（聞こえやすい）よう、内容がよりよくわかるよう、発表が工夫されている。	自分たちの言葉で生き生きと伝えようと努力している。きちんと覚えて話している。みなに見やすい（聞こえやすい）よう、内容がよりよくわかるような発表の工夫が見られる。	初めて見る/聴く人にはあまりよくわからない。自分たちの言葉で生き生きと伝えようと努力しているが、きちんと覚えていない。発表の工夫もあまり見られない。
協力度・コミュニケーション ×１＝5点満点	それぞれの個性や特技を活かしながら、全員が協力して作成/発表している。	全員が協力して作成/発表している。	一部の人の力に頼り、全員で協力的に作成/発表している姿があまりみられない。
総合得点	／40点		
コメント			

評価項目ごとの最高レベルの記述文

◆ルーブリックの評価項目①発表内容

情報量がかなり多く、バラエティに富み、独創的である。学生らしく自分たちなりの視点を持ちつつ、受け取る留学生の目線を意識した内容構成になっている。

◆ルーブリックの評価項目②作成上の工夫

多くの情報を整理して、大変わかりやすくまとめている。全体の構成やポイントがよくわかる。初めて見た人にも印象に残る。受け取った人が必要な情報が取り出しやすい。

評価項目ごとの最高レベルの記述文

◆ルーブリックの評価項目③文法・語彙・発音の正確さ

文法・語彙が正確である。リズムよく正しい発音で話している。簡体字やピンイン、日本の漢字を正しく書いている。

◆ルーブリックの評価項目④発表方法の工夫や発表態度

表情豊かに自分たちの言葉で生き生きと伝えている。きちんと覚えて話している。みなに見やすい（聞こえやすい）よう、内容がよりよくわかるよう、発表が工夫されている。

◆ルーブリックの評価項目⑤協力度・コミュニケーション

それぞれの個性や特技を活かしながら、全員が協力し作成/発表している。

ルーブリックを意識したことが作品にどう表れたか

◆ルーブリックの評価項目①発表内容

情報量がかなり多く、バラエティに富み、独創的である。学生らしく自分たちなりの視点を持ちつつ、受け取る留学生の目線を意識した内容構成になっている。

E班: 先生や同級生・先輩後輩紹介グループが、インタビューした相手

A組 **E班** は
留学生別科の先生や
MULC（多言語コミュニケーションセンター）
の先生に語っていただく
（留学生が一番お世話になり、利用する場所）

B組 **E班** は
中国語学科の先生に
留学生への一言を寄せていただく
（留学生も中国語専攻３、４年生の
授業は履修可能）

ルーブリックを意識したことが作品にどう表れたか

◆ルーブリックの評価項目②作成上の工夫

多くの情報を整理して、大変わかりやすくまとめている。全体の構成やポイントがよくわかる。

初めて見た人にも印象に残る。受け取った人が必要な情報が取り出しやすい。

A班: キャンパス紹介（大学の概要や建物中心）パンフレット作成のこだわり

A組 **B班** は
画用紙と色紙を使用し、
手書きであたたかみを出す
ことにこだわった

B組 **B班** は
中央のキャンパスマップのみ
クレヨンで手書きに。
情報の取り出しやすさにも配慮。
（三つ折り、背面に大学へのアクセス）

ルーブリックを意識したことが作品にどう表れたか

◆ルーブリックの評価項目④発表方法の工夫や発表態度

表情豊かに自分たちの言葉で生き生きと伝えている。きちんと覚えて話している。みなに見やすい（聞こえやすい）よう、内容がよりよくわかるよう、発表が工夫されている。

F班: その他（学校周辺のお店や千葉県の見どころ・特産物など→これ以外でもOK）の発表方法

A組 **F班** は
三つ折りパンフレットを片手に寸劇で発表。
（マンションやスーパーの紹介）

B組 **F班** は
パワーポイントを使用。
（学校周辺のラーメン店の紹介。スライドには千葉のマスコット「ちーばくん」が登場）

ルーブリックを意識したことが作品にどう表れたか

◆ルーブリックの評価項目⑤協力度・コミュニケーション

それぞれの個性や特技を活かしながら、全員が協力し作成/発表している。

C&D班: キャンパスライフ紹介（自分たちの一日）ビデオ／パンフレットの編集作業

A組 **D班** は
パソコンの得意な学生が
エクセルデータで皆の情報を集め、
同じレイアウトになるよう編集

B組 **A班** は
Macのimovieを持っている学生
B組 **C班** は
大学のメディア教育センター
を利用して編集

学生の「振り返りシート」から

リーダーシップをとる人が必要２◆みんなの意見を聞いてまとめる力２

自分の役割を果たす・責任感10

◆協力することの大切さ・難しさ、協調性22◆みんなで協力してよい物を作ろうという姿勢の大切さ◆いろんな人のアイディア（グループ内だけでなく、他班の発表からも学んだ）2◆自分たちで調べたり何かを作るとすごくやる気が出た◆1人で勉強するよりも皆で勉強した方が語学は伸びると感じた

得意分野をコラボレーションさせて一つの作品を完成させることの素晴らしさ・達成感・難しさ・チームワーク20◆コミュニケーションの大切さ・まめな連絡10◆お互い遠慮せずに接することも大切◆自分の意見を伝えることの難しさ。思っていた以上に自分とメンバーの考え方が違っていた◆仲がよくてもみな真剣に意見を交わすことで合わないときがあった◆自分一人では出てこなかったであろう考えに触れていい作品が作れた

●学生の「振り返りシート」から

★自分の中国語力（聞き取る力・語彙等）の不足11◆人よりできないことへの危機感◆何度も作り直して原稿を考えたので中国語が少しスキルアップした気がする◆中国語を活用することが楽しかった

★伝える力：どうしたら簡潔にわかりやすく伝えられるか◆見ている人が面白い・知りたいと思うことをプレゼンすることの大切さ・難しさ11◆自分が作りたい物を作っても相手に伝わらない◆中国語でどう表現するか・自分の言葉でどう伝えるか４◆プレゼン力の不足

★中国語以外の力：インタビューするのに事前にアポをとる・あらかじめ質問を渡しておく・撮影許可を取るなど「大人の常識」を守らなくてはいけないこと２◆パソコン操作力の不足◆語学には他にもいろいろな能力がなくてはならないと感じた◆自分たちで１から作り出すことの大変さ◆不測の事態への柔軟性

●学生の「振り返りシート」から

パソコン・デジカメいろんな物を使って作ってとても楽しかったし、いつもより中国語が体にしみこんだ感じがした

♦計画性：

時間の有効活用・計画性の大切さ３♦時間を守ることの大切さ２♦時間の使い方を班員から学んだ♦資料（写真など）は早いうちからたくさん集めておくこと

何を伝えたいかより、留学生は何を知りたいかを考えた

自分たちで考えて作ってプレゼンするので、すごくためになったと思う♦プレゼン形式で期末テストを行うというのはとても面白いと思った。

見ている人に10分でどう伝えるかが勉強になった２♦言葉（音）のみで伝えるのは難しく、何度も練習していく準備が必要だった♦みんなで思考した物を理想から現実へと変化させる大変さ♦分担したため個人プレーになってしまったのが残念♦やっぱりみんなだらだらして結局最後にあたふたして中途半端に終わってしまったのが残念♦今まであまり話さなかった人と仲良くなれた

ルーブリックは「評価のモノサシ」だけではない

◆ルーブリックの項目の立て方や加重化

教師が重視したい点を反映でき、細かく記述すれば、学習者に「何を」「どのように」学ぶべきか、「どのくらい」できたら目標達成といえるのか、を明確に示すものとなる。

すなわち、ルーブリックは、その使い方次第で、学習者を測るものさしとしてだけでなく、学習の指針を示すものとなる。

ルーブリックは「評価のモノサシ」だけではない

◆ルーブリックの使い方

学習を進める過程で用いれば、現在の到達度と今後の課題を学習者にフィードバックできる。

また、学習者同士の相互評価や自己評価の際にもルーブリックを用いることができる。

→学習者にわかりやすい表現で記述する必要。

ルーブリック評価の「実行可能性」

項目を多くたて、記述を細かくすると、学習者へのフィードバックは増えるが、その一方で...

教師は...

短時間で評価するのが難しい
（特に口頭能力の場合）

学習者は...

プレッシャーになる

しかし「実行可能性」を重視しすぎた今回のルーブリックは...

採点対象は以下の３種類、
グループで１つの作品および１回のプレゼンを
たった１つのルーブリックで評価しているため
学習者の力をきちんと測れていない！

ビデオ（音声と動画）
冊子（文字と写真）
プレゼンテーション

今日みなさんと討議したいこと：

使いやすく、かつきちんと学習者にフィードバックできるルーブリックとは？

①どのような項目をたてておくとよいか

（多めにたてておいて、減らすことや加重化することでヴァリエーションをもたせることも可能）

②レベル分けは何段階にすべきか

③学習者へのフィードバックを重視するならどう記述すべきか

参考文献

- 『外国語学習のめやす　高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』
（公益財団法人国際文化フォーラム。2012年3月）

- 『理解をもたらすカリキュラム設計ー「逆向き設計」の理論と方法』
（Grant Wiggins and Jay McTighe著。西岡加名恵訳。2012年4月。日本標準）

- 『パフォーマンス評価　思考力・判断力・表現力を育む授業作り』
（田中耕治編著。2011年7月。ぎょうせい）

- 『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法～新たな評価基準の創出に向けて』
（ 西岡加名恵著。2003年6月。図書文化社）

- 『パフォーマンス評価』日本標準ブックレットNo.7
（松下佳代著。 2007年12月。 日本標準）

ルーブリックは「公開」されることが大切

　なぜならば、ルーブリックは何よりも子どもたちにとって学習活動や自己評価の指針としての役割をもつからである。ルーブリックにおける評価はあくまでもその時点での子どもたちの到達点であって、それが最終の判定を意味するわけではない。たとえば、３段階のルーブリックが設定された場合、「２」をもらった場合には「３」になるにはどのような学習を改善すればよいのかが教師と子どもたちの間で共通に認識されていることが大切なのであって、ルーブリックにはその役割が期待されている。

▶『パフォーマンス評価　思考力・判断力・表現力を育む授業作り』（田中耕治編著。2011年7月。ぎょうせい）16頁

ルーブリックは「調整」が必要

　そして言うまでもなく、このようなルーブリックを開発するためには、やはりパフォーマンス課題の探究を目指す授業実践の蓄積が、何よりも重要となる。すなわち、評価基準として、子どもたちの認識活動の結節点を段階的に区分するためには、まさしくパフォーマンス課題にチャレンジする子どもたちの認識活動の様相が、「授業研究」を通じて的確に把握されていなくてはならないからである。授業づくりと評価（基準）づくりは、相互媒介的に進行するということが重要なのである。その際に、ルーブリックが評価に関わる人たち（教師たち、さらには子どもたち）のモデレーション（調整）によって作成されることが求められよう。

▶『パフォーマンス評価　思考力・判断力・表現力を育む授業作り』（田中耕治編著。2011年7月。ぎょうせい）16頁

参考：学習者の作品から作るルーブリック

◆『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法～新たな評価基準の創出に向けて』（2003西岡）150頁には、ルーブリック作成の手順として代表的な４つの方法が紹介されている。中でも、西岡が推奨するのは**Wiggins1998の以下の手順**である。

①試行（pilot)として課題を実行し、多数の児童生徒の作品を集める。

②あらかじめ、数個の観点を用いて作品を採点することを同意しておく。

③それぞれの観点について、一つの作品を少なくとも３人が読み、０～５点で採点する。

④次の採点者にわからないよう、採点を作品の裏に付箋で貼り付ける。

⑤全部を検討し終わったあとで、全員が同じ点数をつけた作品を選び出し、それぞれの点数がついた作品に共通して見られる特徴を記述する。

ご清聴

ありがとうございました